

第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和 7 年 5 月 28 日
作成担当部署 綾部市定住交流部観光交流課

2 第三セクター等の概要

法人名 株式会社緑土
代表者名 代表取締役 仲久保政司
所在地 京都府綾部市睦寄町在ノ向 10 番地
設立年月日 平成 11 年 7 月 1 日
資本金 50,000 千円【当該地方公共団体の出資額（出資割合）35,000 千円（70%）】
業務内容

- ・ 公衆浴場の管理運営
- ・ スポーツ施設及び地方公共団体から委託を受けた施設の管理運営
- ・ 飲食店業 ・ 農産物、水産物の加工及び販売
- ・ 酒類、観光用みやげ物、日用品雑貨、新聞の販売
- ・ 各種イベントの企画、運営及び広告宣伝事業

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

地方公共団体としての財政支援、監査、評価の実施状況

緑土は平成 9 年にオープンしたあやべ温泉をはじめ、市が設置する 3 施設の指定管理者として管理運営業務を行っている。

あやべ温泉がある上林エリアでは、過疎高齢化が進むなか、緑土は地域住民の雇用や地域と連携した賑わいづくりに努めるなど、地域活性化の核組織として長年にわたり重要な役割を担ってきた。

開業から 3 年間は順調に利用客数を伸ばしていたが徐々に利用客は減少し、平成 15 年度から赤字と黒字を繰り返すなかで徐々に純資産が減少。平成 26 年度には純資産がマイナスに転じたことから、市では指定管理料を増額し、純資産の回復に努めたところである。

しかしながら、施設の老朽化等もあり、平成 29 年度から更に利用客が減少傾向に転じ、平成 30 年には未曾有の大災害となった西日本豪雨の影響により更なる減収を余儀なくされた。このため、集客力回復のため市が施設の大規模改修を実施。令和元年度は順調に利用客数が増加し売り上げを伸ばしていたが 2 月中旬から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け厳しい経営状況に陥った。このため、令和 3 年度に経営再建計画を策定し、不採算事業の撤退や人件費の削減など経営改善に着手。折からの物価高騰や燃料費高騰もあり思うような改善が見られない状況であるが、経費削減や料金改定にも着手し令和 7 年度からの収支均衡を目指している。

緑土への綾部市の出資額は 3,500 万円（70%）であり、債務超過に陥っていることから出資に対する毀損リスクがあるが、綾部市が損失補償を付した債務及び短期貸付金はない。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

あやべ温泉は、本市における地域活性化の核施設として存続してきた。その役割は大きく、施設の運営を行う緑土はその意義を深く理解し、地域住民の雇用を優先するとともに地域と連携した課題解決にも積極的に取り組んでいる。

コロナ禍で落ち込んだ観光客が戻り切らず赤字経営ではあるが、令和2年度に市民の浄財で木製大型迷路や電動遊具を整備し「遊べる温泉」として新たな賑わいづくりや経営改善に取り組んできた。これらに加えキャンプ場の利便性向上による誘客を進めるほか、使用料の改定や空き部屋となっている宿泊室の部屋貸しを行うなど、赤字体質からの脱却を図り、引き続き緑土に運営を委託する。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

緑土の令和5年度末の債務超過額は24,930千円（資本額50,000千円・累積赤字74,930千円）となっており、令和6年度の収支についても物価や燃料費が高騰している影響等で営業利益として赤字を見込んでいる。

今後の経営については、経費の削減やキャンプ場の整備による誘客、施設の有効活用等を実施し経営の立て直しを行う。

経営健全化年次計画

令和6年度

常勤取締役を4人から1人に減員するなど人件費の削減をはじめ歳出を見直しコストカットを徹底する。

令和2年度から開始した二王公園のキャンプサイトの利便性を向上させるため、園路の整備を実施するとともに、収益性の向上を図るため、利用料金の改定や部屋貸しを行うための条例改正を行う。

令和7年度以降

水場や電源設備の整備などキャンプ場のさらなる利便性向上、レストランのメニュー改善など誘客を図る。

また、空き部屋となっている宿泊室の部屋貸しや法人会員の再開など、人件費をかけずに収益改善を図れる方法について検討する。

(参考)

法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)		
		3年度	4年度	5年度
	資産総額	122,672	118,168	81,065
	(うち現預金)	(62,296)	(54,521)	(43,725)
	(うち売掛金)	(5,583)	(7,773)	(970)
	(うち棚卸資産)	(4,667)	(3,729)	(2,099)
	負債総額	112,058	115,085	105,995
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	(0)	(0)	(0)
	純資産額	10,614	3,083	△24,930

損益計算書から	項目	金額(千円)		
		3年度	4年度	5年度
	経常収益	187,830	185,283	121,336
	経常費用	180,391	192,608	149,142
	経常損益	7,439	△7,325	△27,806
	営業外収益	36,104	2,871	500
	営業外費用	0	221	2,188
	特別損失・法人税等	207	207	207
	当期純損益	7,232	△7,531	△28,012